

第4章 施策の展開

個別施策のページの見方

個別施策12 学びと育ちをつなぐ学校づくりの推進

めざす姿 学校間の連携により、子どもの個性を理解し尊重した指導が継続的に行われています。

■現状と課題

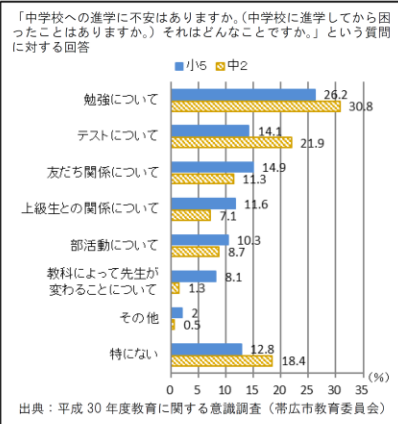
- 学習指導要領の改訂により、小学校中学年における外国語活動の導入、道徳の教科化、情報活用能力の育成など、教育内容の量的・質的充実が図られる中、小・中学校9年間を見通した計画的・系統的な学習指導・生徒指導が重要となってきています。
- 文部科学省の調査によると、いじめの件数や不登校児童生徒数は、小学校6年生から中学校1年生になったときに増加しており、新しい環境における学習や生活に不応を起す、いわゆる「中1ギャップ」と呼ばれています。
- 本市においても、中学校において学習面でのつまずきなどから不登校になる件数が多くなり、帯広市教育委員会の調査では、8割以上の児童生徒が中学校進学に関して、不安を抱いたり、中学校に進学してから困った経験をしたと答えています。
- 本市は中学校区を単位とする「帯広市エリア・ファミリー構想」の取り組みを基盤として、幼児期から中学校段階までの校種間の連携や小中一貫教育を進めています。一つの小学校から複数の中学校に分散して進学する地域があることや、幼稚園や保育所などに在籍する子どもたちは家庭の居住地によって進学する小学校が異なることから、学校区における課題認識の共有を図る難しさがあります。

■取り組みの方向性

- 小・中学校9年間を通した連続性・系統性に配慮した一貫性のある教育活動により、学びと育ちをつなぐ取り組みを進めます。

めざす姿
市民と行政がそれぞれの立場から取り組む共通の目標です。

現状と課題
施策を推進する背景となる、現状と課題、取り組みの必要性を整理しています。



取り組みの方向性
「めざす姿」に向けて取り組む帯広市の施策の方向性です。

■主な取り組み

1 学校間の連携の推進

- (1) 幼稚園・保育所、小学校、中学校などの間において、子どもの学びと育ちをつなぐため、職員の交流や情報交換などに引き続き取り組みます。
- (2) 「帯広市小中一貫教育推進基本方針」に基づき、義務教育期間を見通した教育課程を編成するほか、小学校における一部教科担任制の導入などの取り組みを進めます。

主な取り組み
「取り組みの方向性」に即した施策の内容です。